

「きつと、この近くに長者様の屋敷があったにちがいないっていうんでなあ、みんな血まなこになって捜しまわったが、とうとうみつからなかったとよ。」
親兵衛爺さんは、こんな話してくれました。

〈第九話〉

落葉物語

むかし。

長者が原に、ある長者様がすんでいました。

長者様の田植えには何百人もの人々が駆り集められ、ただの一日で植え終るのが定めまじになっていました。

その年もまた、近郷から集まった数百人の男女が朝早くから苗取りなえとにかかり、やがて田植踊りの笛や太鼓につれて早乙女まおとめたちが一斉に田植えにとりかかりました。

長者様は、はるか北の丘の上に張りめぐらした幕まくのなかから「やあ、これは見事な眺めだわ